



みなとみらい21 Information

2004
Vol. 73

ビジネス拠点の適地として 定着しつつあるみなとみらい

富士ソフトABC本社ビル完成

横浜で創業し、日本を代表する企業として大きく成長を遂げた企業が、再び、横浜へ、みなとみらい21へ帰ってきています。富士ソフトABCも日産自動車も、そんな企業のひとつ。みなとみらい21地区はこうした新たな本社機能を置く企業の進出により、ビジネスの拠点として定着しつつあります。そこで、今回は桜木町駅前に新本社ビルを完成させた富士ソフトABC株式会社に野澤宏会長をお訪ねし、お話を伺いました。

■施設概要

敷地面積	約2,828㎡
延床面積	約30,108㎡
建物	地上21階、地下2階、高さ約105m オフィス、店舗等



富士ソフトABC株式会社
代表取締役会長兼社長
野澤 宏氏

横浜で生まれた会社だから 本社も横浜へ

2004年3月、東証1部上場の富士ソフトABC株式会社は、みなとみらい21に本社ビルを完成し、6月には本社を移転しました。桜木町駅前という絶好の場所に建つ地上21階、地下2階建てのビルには、1・2階に飲食店などのテナントが入り、3階からは、同社の開発部門、総務、経理部門などが配置され、1800名もの従業員がここで働いています。

「この会社はもともと、横浜で生まれた会社ですからね。みなとみらいに、こんなに大きなビルを建てることができ自分でも驚いていますよ。会社を設立した頃には、想像もつかなかったことですからね。」

創業は1970年。野澤氏が27歳のときでした。創業した場所は、意外にも、野澤氏の自宅であっ

た横浜市旭区にある団地の一室だったそうです。

「まだ20代の若者ばかりが集まって、コンピュータソフトの受託開発を始めたんです。学生ばかりが集まってね。そんな会社が、みなとみらいに自社ビルを持てる会社になるなんて(笑)。」と、同社の創業者にして、現在は代表取締役会長兼社長の野澤宏氏は、にこやかに語ります。

みなとみらい21地区の玄関口にあたる桜木町駅前という立地については、次のように述べています。

「横浜は会社誕生の地であり、横浜駅やみなとみらい近隣地域にも足を運びやすく、全国各地にある拠点へのアクセスも容易なことから決めました。また、野毛地区などにも近く、社員のみなさんのアフター5も充実することが期待できますからね(笑)。」

毎日、オフィスに来るのが楽しくなりますよ



3F レセプションフロア入口

「このビルから見る夕景がとにかくきれいで、とても満足していますよ。海があって、私の大好きな帆船も、模型ではなく日本丸の現物を窓の下に見下ろすことができる。会社へ来るのも楽しいし、ここで仕事をするのも、また、仕事を終えて帰るときにも楽しい。長い職場人生の中で、これほど良い環境に恵まれた楽しい職場は、初めてのことだと思っています。」

毎年30%成長を続けてきた経営の極意

野澤氏の自宅で始まった富士ソフトABCは、毎年飛躍的な成長を続けてきました。経営者として何を最も重視してきたのでしょうか。

「大きく伸びた最大の原因は時代背景です。当社は毎年30%売上を伸ばし、その内10%の利益を確保することを繰り返してきたのですが、そこには、仕事ならいくらでもあるという背景があった。基本的には労働集約型のビジネスですから、人が増えれば業容は拡大します。そこで当社では、毎年30%の成長が可能になるように、業務も、人員も拡大してきたわけです。」

野澤氏はこの経営理念を、「持つ経営」と表現します。「資産をコンパクトにして会社を運営していく『持たざる経営』という考え方が現在の主流ですが、当社ではその流れに逆行する形で『持つ経営』を行っています。自社ビルだけでなく、社員も抱えて、発展していこうと考えています。「人が行かない裏山にこそ

花の見どころがある」という、逆張りの発想ですね。それをきちっとやることによって、成長できると考えています。」

「挑戦と創造」 成長が活気を生み出す

野澤氏は、経営者の仕事は会社を成長させることと断言します。

「成長がなければ社内の活気は失われ、従業員にも元気がなくなる。そうすると、新しい分野に挑戦し、それによって新しいビジネスを創造する力がなくなってしまう。失敗してもいいからやり遂げるマインドが失われてしまう。しかし、現状をよく見れば、20年前には考えられなかったビジネスモデルが現実になっている。そこをもっと掘り起こせば、再び成長と利益はついてくる。年間30%の成長は可能だと考えられるのです。だからこそ、従業員の活気を生み出すために、会社を成長させなければならない。それが経営者の仕事だと思うんですね。」

この本社ビルの後に建設する秋葉原の社屋では、コンピュータグラフィック関係のクリエイターを世界から募り、これまでにないビジネスを展開することになるそうです。野澤氏は、今後のさらなる成長へ向けた数々のプランを着々と準備しているようです。「挑戦と創造」という気風は同社に満ちています。



4F レセプションフロア



3F レセプションフロア

横浜を表現したオフィスデザイン



「野毛山動物園」の19F

本社ビルの中は、企業の哲学を反映した、独自のコンセプトに貫かれています。第一に注目したいのが、オフィスのデザインです。各階ごとに横浜の名所、歴史、文化などをテーマにした大胆なデザインとインテリアで特色を出しています。

たとえば19階のデザイン・キーワードは「野毛山動物園」。入口にはライオンの写真が飾られ、打ち合わせスペースの家具調度も野趣溢れるものを揃えて、オフィス奥には、サバンナの写真が壁一面に展開されています。テーマは多岐にわたり、18階は「野毛大道芸」、16階は「横浜スタジアム」、そのほか「中華街」、「山手の異人館」、「みなとみらい21」、「赤レンガ倉庫」など、いずれも訪れる人の心をわくわくさせる大胆なデザインが施されています。

「外側は斬新なデザインでも、中へ入ると画一的で面白みに

「楽しさあふれる野毛大道芸」の18Fフロア



欠けるビルは多いです。だから、このビルは、中のデザインにも工夫をしてみようということで、デザイン委員会を設立して社内からアイデアを募集し、それを形にしたんです。いろいろな企業の方が見学に来られますが、みなさん感心して帰られますよ。」

野澤氏はそう語ります。社員からの評判も上々とのこと。

もっともっと楽しいみなとみらいに期待したい

同社では、モノづくりの喜びを若者に知ってもらうことを目的に、全日本ロボット相撲大会も開催。今年で16回目を迎える大会は、全国から4000もの応募があり、規模・歴史ともに世界でも最大の大会といわれています。こうした「技術メセナ」ともいえる情報発信によって、富士ソフトABCの名前はさらに深く、そして広く、社会全体に浸透します。業容拡大と同時に社会にも深く貢献する富士ソフトABC。この独創的な先進企業を率いる野澤氏は、みなとみらい21の未来について、こんな希望を語って下さいました。

「年間来街者数が4200万人と聞きました。それだけでもすごいことです。しかも、まだこの街には事業拠点になり得るスペースが残っているのですから、どんどん進出してほしい。そしてもっともっと楽しいみなとみらいを創りたいですね。」

富士ソフトABCの新本社ビルは、楽しい街づくりの拠点でもあるのです。



「夕暮れの山下公園」の12Fフロア

「リーフみなとみらい」グランドオープン

新しいライフスタイルを提案する商業施設の誕生

「都市生活の新しいライフスタイルを提案する」という新しいコンセプトの商業施設が、みなとみらい線「新高島駅」にほど近いグランモール公園に面したエリアに誕生しました。

4月23日にグランドオープンを迎えた「リーフみなとみらい」は、1階から3階には、ブランド雑貨やアウトドアグッズ、メガネ、インテリア、玩具などを扱うショップのほか、



カフェなどを合わせて全10店舗が出店しています。

4階から12階は、総合インテリアのリーディングカンパニーが、県下最大規模となる売り場面積19,500㎡に、世界各国から選び抜いた家具、照明、カーテン、小物などを取り揃えて出店しています。

「リーフみなとみらい」のリーフとは葉の意味で、生命や伸びゆくものの象徴であり、1枚の葉をモチーフにしたロゴデザインには、みなとみらい21地区で瑞々しく力強い若葉のような存在でありたいという願いがこめられているそうです。

1階のアトリウムにあるリーフみなとみらいのシンボル「Mother Tree」は、光と緑が共存する心地よい空間を訪れる人びとに提供しています。

■施設概要

敷地面積	約5,500㎡
延床面積	約47,000㎡
建 物	地上12階、地下4階、高さ約70m ショールーム、店舗 等



アトリウム(1F)



「Mother Tree」

「県民共済プラザビル」完成

人びとの安心と、生きがいを支える拠点

共済事業を運営する神奈川県民共済は、1973年、日本で初めて県民共済を誕生させました。その誕生から30周年を記念して、みなとみらい21地区に建設された加入者利用施設「県民共済プラザビル」がオープンしました。県内の情報発信基地として機能するとともに、共済事業のほか、文化・福利厚生事業を推進していく拠点となります。



地上14階、地下3階の新施設にはオフィス、共済窓口、結婚相談所などのほか、ブライダルサロンや結婚式場「メルヴェーユ」、宴会場、300席を有する劇場「県民共済みらいホール」などが設けられています。

エンタランス前のペDESTリアンデッキには、「鉄道発祥の地」である桜木町駅にちなんだ美術陶板「横浜鉄道館蒸気車往返之図」(三代広重作)が設置され、1915年(大正4年)、現在の横浜駅が開業する以前、桜木町駅が横浜駅であったという歴史を物語っています。

横浜の歴史と文化、そこに暮らす人びとの安心と快適な生活を支援する大きな役割を県民共済プラザビルは担っています。

■施設概要

敷地面積	約1,600㎡
延床面積	約15,900㎡
建 物	地上14階、地下3階、高さ約72m オフィス、ホール、結婚式場 等



横浜鉄道館蒸気車往返之図



県民共済みらいホール

街の交通がさらに便利に

徒歩で、船で、より簡単に移動

2ヵ所のペDESTリアン(歩行者)デッキと水上交通発着施設「ピア赤レンガ」の完成により、みなとみらい21地区内や、近隣地域との交通がより安全・便利になりました。

徒歩で! 右地図に記した2ヵ所のペDESTリアンデッキが整備され、歩行者のアクセスがより便利になりました。

船で! 横浜赤レンガ倉庫に隣接した赤レンガパークに、シーバスや観光船の発着基地「ピア赤レンガ」が完成。みなとみらい21地区への新たな海の玄関開設により、山下公園、大榎橋、ぶかり橋や横浜駅東口への海上アクセスが一層整備されました。



ペDESTリアンデッキ



ピア赤レンガ



日産自動車株式会社移転



建物外観イメージ

本社機能移転先がみなとみらいに決定

66街区において、今年4月から開発事業者を募集していましたが、このたび、横浜市は日産自動車株式会社を事業予定者として決定しました。

計画内容	日産自動車本社機能の移転
敷地面積	約10,000㎡
施設規模	地上33階、地下2階、高さ約150m
施設内容	オフィス、ギャラリー、カフェ 等

(設計段階で変更となる可能性があります)

みなとみらいビジネススクエア

快適性、機能性、機動性を追求した新ビジネス拠点

本年9月、新たなビジネス拠点「みなとみらいビジネススクエア」が33街区に誕生します。みなとみらい駅に直結した地上14階、地下2階のオフィスビルは、同駅の地下モールの出入口と主要道路「いちょう通り」の結節点という好立地にあり、ワンフロア約1,250㎡の開放的なオフィス空間となります。



建物外観イメージ

53街区

新名所となる総合エンターテインメント施設が誕生

みなとみらい線新高島駅に近い53街区に、総合エンターテインメント拠点が今秋オープンします。東急不動産、三菱地所、東京放送、テイクアンドギヴ・ニーズの4社により建設中の複合商業施設は、シネマコンプレックス・アミューズメント施設、ライブハウス、ハウスウェディング施設などで構成され、多様かつ魅力的なエンターテインメント空間を提供します。この新施設は、みなとみらい21の新名所として、来街者の増加と新高島駅周辺街区への回遊性の向上が期待されています。



建物外観イメージ

開発募集街区情報 — 横浜市等で、公募実施中及び今後予定街区のご紹介をします —



◆公募実施中街区

街区	敷地面積	処分方法
42	約1.3ha	売却
61	約4.6ha	貸付(10年)

◆公募予定街区

街区	敷地面積
20	約22,120㎡
43	約7,800㎡
46	約9,000㎡
57・58	約22,900㎡

みなとみらい21新高島駅周辺街区においては、みなとみらい線の開業を契機として、賑わいと活気ある街づくりを進めています。

ここで紹介している街区は、現在公募中の街区及び今後公募予定の街区です(平成16年8月1日現在)。

詳細は、公式ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.minatomirai21.com/development/index.html>

みなとみらい21が、多くの人が働き、集い、

市民に親しまれる街となるよう、より一層、

街区開発を促進していきます。